

実践のまとめ（中学校3年 国語科）

授業公開日 令和7年11月26日第5校時

指導者 阿賀町立三川中学校

教諭 島津 一美

1 研究テーマ

身に付けてきた「読み方・学び方」を活用して、主体的に学習を進める生徒の育成
～单元内自由進度学習を通して～

2 研究テーマについて

(1) 研究テーマ設定の意図

中学校学習指導要領（平成29年告示）では、言葉による見方・考え方を働かせ、国語を通して「正確に理解し、適切に表現する」資質・能力を育成することを目標としている。そのための学習は系統的・段階的に構成されており、生徒は螺旋的・反復的に学びを積み重ねる中で、自らの「読み方」や「学び方」を身に付け、強化していく。

昨年度は、スタディ・ログの蓄積と活用をテーマに研究を行い、生徒が自らの学びを記録し、必要な場面で見直して活用することが、主体的な学習を支える手立てになるという結果を得た。加えて、評価基準の設定から最終評価までを生徒自身が決定して学習を進める学習過程も、生徒の主体性を引き出す上で有効であったと感じた。自身のこれまでの授業を振り返ってみると「生徒の主体性を重視する」と言いつつも、学習の多くを教師が決定して進めることが多かった。しかし、昨年度の研究結果を受け、学ぶ目的や見通しを明確にするとともに、生徒が習得してきた「読み方や学び方」を必要とときにいつでも活用できるように学習過程を工夫することで、より主体的に学習を進められる生徒を育成できるのではないかと考えた。そこで、本研究では、スタディ・ログの活用に加えて、見通しをもたせて進める单元内自由進度学習（学習過程）を手立てとし、生徒の主体的な学びの姿の実現を目指すことにした。

(2) 研究テーマに迫るために

① 学習過程の工夫（学ぶ目的や見通しをもって学習を進める工夫）

以下のアからオのサイクルを意識して単元を構成し、生徒と教師が「学ぶ目的」と「ゴール」、単元全体の学習の「見通し」を共有できるようにする。

ア 単元ガイダンスで、教師が、学習目標、配当時間を生徒に提示する。

イ 生徒が、過去のスタディ・ログを見直し、パフォーマンス課題、評価基準、学習の進め方を決め、教師と共有する。

ウ 生徒が、学習計画を立て、課題達成に向け、自由進度で学習する。

エ パフォーマンス課題に取り組み、生徒同士で評価する。

オ 学習で得た「読みの視点」や「学び方」を振り返り、ログに残す。

② 「読み方や学び方（自力で読む力）」を習得・活用する工夫

ア スタディ・ログの蓄積と活用

日々の学習記録をタブレット型端末に蓄積し、適宜それを見直し、活用させる。また、教師も生徒とログを共有する。教師が生徒の学習状況を把握することで、必要な手立てを講じたり、一人一人に寄り添った指導をしたりすることができる。

イ 望ましい考えや言動、態度に対する価値付け

生徒が表出する望ましい考えや言動、態度や気づきなどをその場ですぐに生徒にフィードバックする。教師による「価値付け」を意図的に即時行うことで、生徒のよりよい「読み方・学び方」の定着が期待できる。

(3) 研究テーマにかかわる評価

※当該クラスは、全12名（うち特別支援クラス在籍生徒1名）のクラスである。

- ① 授業後のアンケート（5段階）で、「自分で読み方や学び方を自己選択・自己調整して主体的に学習を進めることができた」という質問に5（100%くらいの感覚）と答える生徒が40%以上になる。（11人中4人以上）
- ② 個別学習が苦手な生徒Aが、自らスタディ・ログや仲間などを活用し、自己調整しながら課題に取り組む姿が見られる。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

主題を考える『故郷』（新編新しい国語3 東京書籍）

(2) 単元の目標

- ・文章の種類とその特徴について理解を深めることができる。【知識及び技能】（1）ウ
- ・文章に表れているものの見方や考え方について考えることができる。
【思考力、判断力、表現力等】C（1）イ
- ・文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の考えをもつことができる。
【思考力、判断力、表現力等】C（1）エ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、思いや考えを伝え合おうとする。
【学びに向う力、人間性等】

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・文章の種類とその特徴について理解を深めている。 （1）ウ	①「読むこと」において、文章に表れているものの見方や考え方について考えている。C（1）イ ②「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもっている。C（1）エ	・ <u>進んで考えを広げたり深めたりし、課題にそって自分の考えを表現しようとしている。</u> ※ <u>粘り強さ</u> ※ <u>自己調整</u>

(4) 単元と生徒

「故郷」は、郷愁や人間関係の変化といった普遍的なテーマを扱う中学校終盤の教材である。これまでに培ってきた読解力や学び方を活用し、自分なりの視点で主人公の心情や社会背景を読み取ることができるため、生徒一人一人の主体的な学びを促すために適した教材である。また、生徒はこれまで、「物語」を読解するための自身の「読み方」を意識しながら、繰り返し学習を積み上げており、その過程で自分に適した「学び方」も身に付けてきている。与えられた時間の中で自己調整しながら学習を進め、対話を通して他と協働することでより深い学びを得られることも実感している。本単元では、パフォーマンス課題の設定が

ら評価までをすべて生徒に委ね、これまで身に付けてきた自身の「読み方」「学び方」を活用して読解することで、目的をもって主体的に学習を進める「自立した学習者」を目指したい。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全8時間）

次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と【方法】
1 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもつ。 ・ゴールを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎教師が「教材」「学習目標」「配当時間」を示す。 ◎生徒がスタディ・ログを見直し「パフォーマンス課題」「評価基準」を設定する。 ◎教師と生徒が学習の進め方とゴールを共有する。 	
2 (4) 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・個別最適な自由進度学習 	<ul style="list-style-type: none"> ◎生徒が自分の読み方で読解を進める。 ・誰と、どこで、何を使って、どのように学ぶかは、生徒に委ねる。 ・自ら問いを立て、自己決定・自己調整しながら考え、解決を試みる。 ◎対話を通して考えを広げ深め、自分の考えをもつ。 	<p>知識・技能 文章の種類とその特徴について理解を深めている。 【ワークシート】 思考・判断・表現 文章に表れているものの見方や考え方について考えている。 【教科書・ワークシート・振り返り】 思考・判断・表現 人間、社会などについて、自分の考えをもっている。 【教科書・ワークシート・振り返り】 態度 進んで考えを広げたり深めたりしようとしている。 【行動観察】</p>
3 (2)	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題に取り組み、生徒同士で評価し合う。 ・単元を通して「学び」を振り返り、記録を残す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎目標の評価になるように、課題に取り組む。 ◎評価基準に則って、評価する。 ◎次回、今回よりもよりよく学ぶために必要なこと、覚えておくといけないことを記録し、タブレット型端末に残す。 	<p>思考・判断・表現 人間、社会などについて、自分の意見をもっている。 【評価課題】 態度 学習課題にそって表現しようとしている。 【行動観察】</p>

4 本時の展開（本時 6 / 8 時間）

(1) ねらい

対話を通して再考し、自分の考えをもつことができる。

(2) 展開の構想

手立て① 見通しをもたせる工夫

- ・学習目標、課題、評価基準、時間などを視覚的に提示して、生徒が自己調整できるようにする。

手立て② 「読み方」「学び方」を身に付けさせる工夫

- ・価値ある考えや言動が見られたときにすぐにそれを取り上げ、教師がホワイトボードに記入するなどして価値付ける。即時フィードバックする。
- ・まとめや振り返り（アウトプット）の時間を十分確保するとともに、1時間の板書を生徒のタブレット型端末に送信する。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ●予想される生徒の反応	□評価【記録に残さない】 ○支援 ◇留意点
導入 5分	・本時の学習の見通しをもつ。	○本時の流れと次時の予告をする。 ●○本時の見通しをもつ。 学習の目的、課題、評価基準、残り時間、今日自分がやること等を確認する。	○見通しをもたせるために必要な情報を提示する。 (①)
めあて：対話を通して再考し、自分の考えをもつことができる。			
展開 30分	個人 グループ 自由	●自分の考え、現在地を確認する。 ●対話を通して考えを広げる ●自分のやり方で学習を進める。	態度 進んで考えを広げたり深めたりしようとしている。 【行動観察】 ○価値ある言動や考えを取り上げ、フィードバックする。(②) ○生徒と教材、生徒と生徒をつなぐことを意識する。(②)
まとめ 10分	個人 ・自分の考えをまとめる。	●最終的な自分の考えと根拠理由をまとめ、タブレットに提出する。	思考・判断・表現 人間、社会などについて、自分の意見をもっている。

振り返り 5分	・振り返り	●気づき、有効だった学び方、次回やることなどについて振り返りを残す。	【まとめのワークシート・ロイロノートのカード】
------------	-------	------------------------------------	-------------------------

(4) 評価

評価規準

対話を通して再考し、自分の考えをもつことができる。

評価基準

B まとめ記述で自分の考えを書いている。

A まとめ記述で自分の考えが書いてあり、根拠や理由の追加、考えの変容などがある。

5 成果と課題

(1) 指導の実際（授業の実際）

① 見通しをもたせる工夫について

毎時間「学習目標・課題・評価基準・配当時間」を視覚的に提示し、教師と生徒で共有した（図1）。また、本時のおおよその流れを板書したり掲示したりすることで、生徒自身の自己調整を促した（図2）。

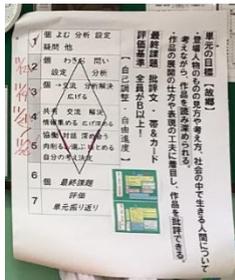


図1



図2



図3

単元終了後、生徒に行ったアンケートでは「毎時間、目的をもって授業に取り組んでいるか」という質問に対して肯定的回答が100%であった。

生徒のコメント（授業後）

- ・黒板にいつも目標を書いているので分かりやすい。
- ・先生が最初に最終課題や、進み方を教えてくれるから迷わない。
- ・みんなが話している内容（考察や疑問）を黒板にまとめてくれるとやりやすい。今分かっていることが整理されると、次何を考えるべきかが分かっていいから。
- ・最終課題までのタイムリミットが分かるから、その時間で何をやるかを考えてから学習を進めることができた。

以上のことから、学習に必要な最低限の情報を視覚的に提示し、全体で共有することは、「学習の見通し」をもって、生徒が主体的に自己調整をしながら学習を進める手立てとして有効であったといえる。

② 「読み方」「学び方」を身に付けさせる工夫について

学習中、多くの生徒にとって模範的な言動や、深まりを促しそうな考えやつぶやきが出た際、すぐにそれを取り上げ、言葉や掲示物で生徒にフィードバックすることを心がけた（図3）。結果、仲間の発言や教師の言葉に気づきを得て、考えを深める生徒の姿が見られた。また、まとめの時間を確保して本時の気づきを記録させるとともに、本時の板書（図2）を生徒全員のタブレット型端末に送信した。

生徒のコメント（授業後）

- ・前回やった単元で役に立ったことがメモや振り返りで書いて残っているから、それを見て最終課題に取り組めた。いつでも見直せるからいい。
- ・授業が終わったら、分かったこと、次回したいことを書くから、前回の振り返りを見て何をもうとしたかったか、何に気付くことができたかを確認して、学習することができた。
- ・前の日に出た疑問や友達の問題を解決するための目標を立てていた。あと、その日やることもメモしていたから、すぐに授業に入れた。
- ・黒板の写真があるので、休んでも何をやったか分かった。

以上のことから、授業中の即時フィードバック、ホワイトボードなどを使った視覚的なポイントの掲示が、生徒の学習を支援し、深まりのある思考を促すことに有効であることがわかった。また、スタディ・ログを蓄積し必要に応じて活用することは、生徒が見通しをもって主体的に教材を読み、自身の学び方を身に付ける手段として有効であると再確認した。

(2) 研究テーマに関わる評価

① 「授業後のアンケートで、『自分で読み方や学び方を自己選択・自己調整して主体的に学習を進めることができた』という質問に5（100%くらいの感覚）と答える生徒が40%以上になる。」について、授業後、81%の生徒が「5」と回答した（図4）。7月に行ったアンケートでは、同じ質問に対しての回答率が18%だったため、主体的に学習に取り組んでいるという生徒自身の感じ方が劇的に高まったことになる。以上のことから、教師と生徒が見通しやゴールを共有する学習過程は、主体的に学習を進める生徒の育成に効果があるといえる。

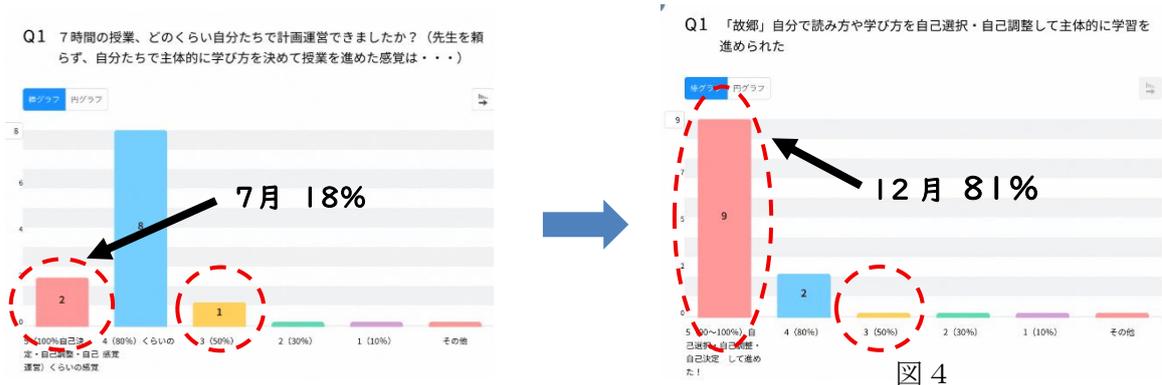


図4

② 「個別学習が苦手な生徒Aが、自らスタディ・ログや仲間などを活用し、自己調整しながら課題に取り組む姿が見られる。」について、Aが全時間に渡って、仲間や教師だけでなく、スタディ・ログ（図5図6）を活用しながら計画的に学習を進める姿が見られた（図7）。このことから、目的が明確で、学習に必要な情報がいつでも活用できる状態であれば、個別学習が苦手な生徒も、自分に適したやり方で迷わずに学習を進められることがわかった。また、Aのような生徒も安心して協働できる学習環境・学級風土を醸成することも非常に重要だと感じた。

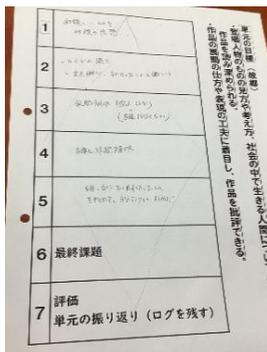


図5



図6



図7

(3) 今後の課題

① 教師の「授業調整力」

学習を生徒に委ねると、生徒は主体的に学習に取り組み、学ぶ力を伸ばしていくことができると分かった。反面、生徒が主体的に学べば学ぶほど、学習時間が増える傾向にあるため、授業内容や時数をよりコントロールすることが必要となる。また、生徒の学習を支える教師側の授業準備や生徒一人一人の学習を見取る（寄り添う）時間も増えるため、教師がゆとりをもって教材研究や授業準備をすることができるよう、業務体制や学習過程をより工夫することが大切だと感じた。

② 「学びのコーディネーター」としての教師の役割

生徒の学び方は一人一人全員違っており、学習の習熟度や得意な学習の仕方、使いやすいツールも様々である。その生徒全員が主体的に学び、学習の目的を達成するためには「先達」が必要である。教師には、生徒一人一人の学びを把握し、適宜必要な手立てを示し、進み方を選択させながらゴールに導くファシリテート力、「学びのコーディネーター」としての役割が強く求められると感じた。ただ、生徒同様、教師も経験年数や教材に対する得意不得意が一人一人異なっている。個人ですべての単元の学習過程をコーディネートすることは非常に苦しいため、教師同士も情報を共有し、支え合うことが必要である。生徒とともに「国語」を楽しみながら「学びのコーディネーター」として成長できる環境を意識して整えることも大切だと感じた。

③ 系統的・螺旋的な学習過程（プロセス）とスタディ・ログの共有・引き継ぎ

生徒は小学校1年生から9年間、学習指導要領に則って系統的・螺旋的に学習を積み上げている。ところが教師は、異動や新学期の担当替えなどで新しいクラスを担当することになった際、目の前の生徒たちが、これまでの学習過程でどのような読み方や学び方を習得しているのか、どのレベルの学習ができるようになっているのか詳細を具体的に確認することが難しい。生徒の過去のスタディ・ログ、または、担当教師の授業記録（学習過程の記録）を確認することができれば、教材研究や指導計画の構想が容易になるだけでなく、生徒にそれまで習得した学び方を生かした学習を継続させることも可能になる。セキュリティや個人情報等の問題もあると思うが、ICTを活用し、年度・学年を超えて情報を共有したり引き継いだりすることは、系統的・螺旋的に「自立した学習者」の育成を目指す際に、得るものが大きいと感じた。

結果として、生徒は「読み方」「学び方」「見通し」が揃えば、主体的に学習できる。今後は、指導法と並行して、生徒の学習を支える「教師の役割」を追究していくことが課題である。

〈引用・参考文献〉

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 国語編』。株式会社東洋館出版社。2018